



## 巻頭言

耳鼻咽喉科 教授 / きむら ゆりか  
木村 百合香



皆様、初めまして。本年1月1日より昭和大学江東豊洲病院耳鼻咽喉科診療科長として赴任いたしました木村百合香と申します。

耳鼻咽喉科は、文字通り「耳、鼻、のど」を対象とした診療科です。五感のうち、きこえやにおい、味の三つの感覚と、食べること、話すことという、まさに人間が人間らしく生きるために必要な感覚、機能を幅広く担当しています。

「きこえ」の問題は、お子さんの場合は言語発達や学習面で、ご高齢の方の場合は認知機能に大きな影響を与えます。お子さんによく見られる「きこえ」の問題は滲出性中耳炎です。当科では、お近くの診療所の先生との連携のもと、難治性の滲出性中耳炎に対する鼓膜チューブ留置などの専門的治療を行なっています。また、高齢者の難聴は認知症の最大の危険因子とされています。鼓膜に穴が開いているような「治る」難聴である慢性中耳炎に対しては外科的治療を行うことで聴力が大幅に改善することがあります。

近年、軽症の慢性中耳炎に対しては、外来で簡便にできる「鼓膜穿孔閉鎖術」が開発されており、当科でも軽症な患者さんには本法を用いています。一方で、穿孔が大きい場合や、耳だれのコントロールが難しい場合、難聴の度合いが高度な場合には、鼓室形成術を選択するというように、重症度に応じた治療法を提供することができます。加齢に伴う難聴に対しては、積極的に補聴器のフィッティングを行い、「きこえ」の改善を図ります。

また、「のみこみ」はよく食べよく生きるための根幹をなす機能です。「のみこみ」の障害を「嚥下（えんげ）障害」と呼びますが、私たちは、嚥下障害への豊富な治療経験があり、加齢に伴う軽度の嚥下障害から、誤嚥性肺炎を反復するような重度の嚥下障害まで、診断からリハビリ指導・外科治療など、個々の患者さんの病状に見合ったオーダーメイドな治療方針を提案しています。また、嚥下障害の原因疾患は、さまざまな診療科にまたがります。昭和大学江東豊洲病院のチームワークを活かし、当該診療科やリハビリテーション療法士、看護師、管理栄養士、薬剤師など、多職種による介入を行なってまいります。

昭和大学江東豊洲病院の一員として、耳鼻咽喉科スタッフ一同、地域に貢献できるよう、一層の努力を重ねていく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



### 第119号のトピックス

- 巻頭言（耳鼻咽喉科）
- 特定行為研修修了者の紹介
- 認定看護師の紹介
- 能登半島でのDMAT活動報告
- 研究発表会を開催しました
- 編集後記

# 特定行為研修修了者の紹介

## 特定行為研修修了者（看護師）

／ 看護部（ICU）

たけだ  
武田 かわり

私は 2022 年に特定行為研修を修了し、主に人工呼吸器装着中の患者さんの評価・設定変更を行なっています。特定行為とは、専門的な知識と技術が必要とされる特定行為(診療の補助)を、研修を受けた看護師が医師の指示を受けて行うことです。

看護師が人工呼吸器の設定を変更できる良い点としては、

- ① 変化する状況に合わせ、タイムリーな対応が行えること
- ② 人工呼吸器の設定だけに頼らず、日常生活支援の視点から人工呼吸器装着中でも「座る」「立つ」など行い、呼吸をしやすくしたり、痰を出しやすくしたりすることで、人工呼吸器装着期間が最小限となるような取り組みが行えること
- ③ 最新のガイドラインにそったシステムを作ること



病棟全体の水準を高めることにもつながる点であると感じています。特定行為制度自体が 2015 年 10 月から開始され、各病院で新たな取り組みとなっています。新しい取り組みは大変ですが、江東豊洲病院の医師、看護師はもちろん、多職種も活動を支援してくれています。特定行為看護師の活動としては 2 年目で勉強中の身ですが、患者さんの早期回復のための一助になれるよう今後も活動していきたいと思っています。

# 認定看護師の紹介

## 小児プライマリケア認定看護師

／ 看護部（こどもセンター）

かんの はやと  
菅野 隼人



私はこどもセンターに勤務している小児プライマリケア認定看護師の菅野です。小児プライマリケア認定看護師は、予防医療から重症な治療までお子さんやそのご家族が抱える問題に幅広く対処することが求められています。

子供が病気になるだけでご家族は不安になると思います。その上、入院して治療が必要となると、さらに不安が増えることでしょう。そのような不安を軽減できるように、発達段階に合わせたお子さんへの遊びの提供やご家族の不安に寄り添い、誠実な看護を提供できるように取り組んでおります。

また、長期で入院されているお子さんや医療的ケアが必要なお子さんに関しては、病院の治療だけではなく地域に戻ってからの将来を見据えた関わりを意識し、医師をはじめとする医療スタッフと連携し活動しております。

一人でも多くの子ども笑顔を守りたいと思い日々、看護に励んでおります。

本年は元日から能登地方を中心に大地震が発生し、多大な被害が出ました。のちに気象庁により「令和6年能登半島地震」と命名されましたが、当院にも東京都からDMATの派遣要請がありました。

第6次隊として派遣が決定し、1月22日に病院救急車で陸路で富山に向けて出発しました。時を同じくして北陸地方には今季最強寒波が襲来し、翌23日には業務引継ぎのため七尾市に向かいましたが大雪になりました。派遣前の事前情報では、食料・飲料水の確保困難、現地病院で寝袋での宿泊、能登半島内で使用できるトイレなし、とされていましたが、高速道路が開通していたので富山市内に宿泊して毎日七尾市に出向する（片道約2時間）こととしました。

寒波のためか救急車の調子が悪くなり、今後の大雪の中での本部往復および能登半島内での活動に伴う移動を考えると、タイヤやバッテリー、オイルの交換が必要と判断し、夕刻過ぎに救急車の整備を行いました。予報通り連日大雪の中での活動となりましたが、この整備により安全に活動することができました。24日からは能登中部保健福祉センターを活動拠点とし、高齢者施設や市中病院に出向して情報収集活動を行いました。七尾市は、電気はほぼ全域で開通しているものの、水道の復旧見込みは4月頃とされ、市内全域で断水状態が継続していました。そのため簡易的なトイレが使用され、震災以降一度も入浴できていない方々がほとんどでした。そのような不衛生な状態の中で、COVID-19 他の感染症の発生がみられていました。

移動の多い活動のなかで七尾市は一見、倒壊家屋も目立たず平静にみえましたが、細い路地内や海沿いの地域では電信柱が傾いていたり、路面のひび割れで大きな段差が生じ通行止めになっている箇所、半壊家屋もしばしば見られました。26日に現地での活動から撤収し、27日に富山市内から病院救急車で陸路で帰院しました。

今回の活動時期は災害急性期を過ぎており、高齢者施設・病院訪問による施設の現状把握が主だった活動になりました。施設訪問すると、被災された方々は明るく気丈にふるまっておられました。我々が具体的なお手伝いができない状況下の訪問でも、DMATが来てくれてお話しするだけでも私たちはほっとするんですよ、とお話しただけなのがとても印象に残っています。

帰京して数日後、ニュースで七尾市の水道復旧は予想より早く進みそうとの朗報を目にしました。これから復興に向けての長いプロセスがあると思いますが、今後も様々なかたちでご支援ができればと思っています。



左から森田医師、平山看護師、高田業務調整員、倉富看護師



現地での情報収集活動の様子

※統括DMAT登録者とは、災害の急性期に活動できる専門的な研修・訓練を受けた災害医療チーム(DMAT)の本部責任者として活動する資格を持つ隊員のことです。

## 研究発表会を開催しました

臨床研究支援室 室長 <sup>しまだ けん</sup> / 嶋田 顕

院内の臨床研究活動活発化のため、2月15日（木）に、開院以来初めてとなる多職種合同の「第1回江東豊洲病院研究発表会」を開催しました。

8つの演題が発表され、各研究の研究代表者や共同研究者は、医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、事務職員など多職種にわたりました。医系総合大学の附属病院としての特徴を活かした多職種が連携した研究成果が発表されたほか、発表後には質疑応答による議論も深められ、今後の研究活動に繋がる気づきや刺激を得るよい機会となりました。

「診療」「教育」のみならず、当院で行われている「研究」の成果が将来的に医療に貢献できるよう、研究の推進に取り組んでまいります。



2023年度  
第1回  
江東豊洲病院研究発表会

当院での初の試みとして、  
研究発表会を下記日程で開催します。  
日頃の研究成果を知ることができる貴重な機会です。

どなたでも発表を聞く事が出来ますので、  
お気軽にご参加下さい。

記

日時：2024年2月15日（木）  
17時30分 ～ 19時20分（終了予定）  
※病院運営委員会終了後

場所：9階講堂【口演形式】

お問い合わせ  
臨床研究支援室  
☎6361

編

集

後

記

今年は元日から悲しい事件が続きました。そのような年の春の中で、2024年3月24日、江東豊洲病院は10歳の誕生日を迎えます。10年前の2014年3月24日の朝、これからの江東豊洲病院の将来に対し不安と夢、希望の入り混ざった中で開院を迎えたことがつい先日のように思い出されます。

私は産婦人科医ですが、この10年で約6,100人のお子さんが産まれております。その中には当院で3人を出産してくださった方も数多くいらっしゃいます。一方で、今年の1月には繰り返す流産や不妊症の方々とともに「赤ちゃん」という夢を目指すリプロダクション外来をオープンし、全ての女性に対して「やさしい病院」であることを日々目指していきたいと決意しました。

さて、新年度を迎えるにあたり、皆さんの夢はいかがでしょうか？皆さんの夢が叶いますことを願いながら、次年度の病院だよりにつなぎたいと思います。

周産期センター <sup>おおつき かつふみ</sup> 大槻 克文



昭和大学  
SHOWA University

昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38

TEL03-6204-6000(代表)

発行責任者：横山 登 編集責任者：大槻 克文



昭和大学江東豊洲病院  
Facebook ページ



Showa University Koto Toyosu Hospital